

自己評価および外部評価結果

愛の家グループホーム松戸上本郷

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が運営理念を把握しており、毎日唱和し、実践できるように心がけている。	新人教育の時から理念について指導し、また会議や研修の度に理念について唱和し話し合うなど、それが事業所全体に浸透するよう努めている	理念を具体化し、実践に繋がる様に更に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。近隣の小学校の生徒さんが見学に来てくれたりしている。	町内会の行事に積極的に参加すると同時に、自治会で行う清掃やゴミ出し当番などに職員、利用者も参加し、日常的に交流できるよう努力している。	事業所周辺の住民を対象に認知症に関する講演を企画しており、これを積極的に推進して密な関係が構築できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも認知症の理解や支援方法を伝えるため、地域のイベントに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者状況や活動報告をし、意見を話し合い、サービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族等で2ヶ月に1回開催している。毎回、利用者の状況や行事の検討、それに地域の状況などについて活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ訪問したり、電話にてよりよい関係を築くように心がけている。	細かなことでも、市役所の担当者を訪問するなどして相談や報告をしている。より密接な関係構築ができるよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体例をマニュアル化し、玄関他の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修などを通じて拘束しないケアをスタッフに徹底させると同時に、施錠などについては家族の理解がえられるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを通じ、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は知識として持ち合わせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様会を通じて、意見や要望をお聞きし、反映させている。	利用者の家族は松戸市内と近隣都市に居住している家族が多く、訪問頻度は高い。運営会議開催日に家族会も開催し、できるだけ多様な方法で意見・要望を聞き、反映できるよう努めている。	月1回「グループホームだより」を発行し、個人個人の家族にも手書きで生活の様子を伝えている。こうした多様な家族とのコミュニケーションを更に推進することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議及びユニット会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	会議の場で意見や要望を聞くが、夜勤勤務時等に個別に話し合いを持ち、意思の疎通ができるよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理を徹底しており、定期的な面談を行い、意見を反映させている。また、半年毎に評価を行い、表彰したり評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修に力を入れており、段階毎の研修制度により、キャリアアップできる環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や各セミナーなどの案内を回覧し、希望者には参加できるように、バックアップしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要求や要望を細かくアセスメントし、ニーズにあったケアプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	すべてにおいて傾聴し、また分析し、よりよい関係を築ける様、信頼を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よくお話をお聞きし、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることでやりたいことをやっていただけるように、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携の大切さ、ご協力の必要性をご説明し、よりよい関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、支援に努めている。	馴染みの方々への電話や手紙などの支援を行ったり、家族の協力で、入居者の友人・知人の訪問を支援している。年賀状等も職員の支援を得て送られた利用者も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の思いを大切にし、孤立せず、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設の見学に同行したり、一緒に探したりしている。また退居後もいろいろ相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のユニット会議において、個々のカンファレンスを行っている。	日常の利用者本人の行動や表情、家族からの情報等から本人の思いや意向を把握するよう努め、何をしたいかを察知して対応している。	意志疎通の出来ない入居者には、家族等とコミュニケーションを深め、家族に協力を仰ぎながら、更なる入居者の本人本位の支援に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とご家族様からお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活リズムを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意向に添って、医療関係者・介護スタッフが話し合い、介護計画を作成している。	スタッフや医療関係者、それに家族との話し合いを十分に行い、その結果を反映させた介護計画の作成して実践している。	介護によせる家族の期待は多様で、高く、事業所の方針とズレの生じることも想定される。コミュニケーションを深めることでギャップが狭まるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の水分表・排泄表・健康管理表・ケア日報・個人記録で情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態により話し合い、決して諦めず、あらゆる方法で支援するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまりされていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診・24時間対応で支援している。	全員がかかりつけ医を提携医療機関にしているため、医師の情報を的確に反映できる体制が構築されている。又入居者が、他の医療機関の受診希望も対応し、家族同行の場合も受診結果の情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際、状況を伝え、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、ソーシャルワーカーと蜜に相談し、情報交換しながら、早期退院できるように支援している。またご家族様とも蜜に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針等は契約時に説明している。段階により医療関係者とご家族様とその都度話し合いをしている。	入居時、重度化した場合の事業所の対応を説明し、家族の同意を得ている。実際、そのような状態になった場合は、家族、医師の意見を尊重しながら具体的な対応方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	2回利用者の避難シューター、スプリンクラー、煙感知器など、ハードウェアを完備すると同時に、年2回の避難訓練、水や食料の備蓄などを行って万一の場合に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴や性格・環境などをできるだけ情報収集し、声掛けや対応を統一し、その都度検討している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけのタイミングや仕方、身だしなみ、レクリエーションなどの参加などを配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表して、毎日自己決定できるように、見守り介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った生活リズムを把握し、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選定をしていただいたり、化粧品の声かけ・髭剃り等の整容を行っている。また理美容にてカットを依頼したり、カラーリングしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態をとっている。またできる方でやりたいと思う時に一緒に準備や片付けをしている。	法人で月毎に献立をつくっているが、利用者にあうよう事業所で変更したり、アレンジし、独自のルートで食材を調達している。また、外食を希望する場合にはスタッフが同行し、支援している。	“おいしい食事”は利用者を楽しませるという点でさらに重要である。今後とも、利用者の喜ぶおいしい食事が提供されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には管理栄養士が作成した献立に添って食事の提供をしているが、個々に合わせた栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや口腔ケアの介助を行っている。また訪問歯科による定期健診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導するなどして、失禁を減らすようにしている。	排泄チェック表でそのパターンを把握し、おむつやリハビリ・パンツに依存することなく、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排便コントロールしている。また腹部マッサージを行ったり、水分摂取に努めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添うようにしているが、時間帯はおおまかに決めている。個々に希望された曜日に入浴していただいている。	基本としては週2回の入浴となっているが、要望に応じて回数や時間帯を調整している。入浴を拒否する利用者も多く、相性の良いスタッフの介助で入浴できるようにするなど、配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや状況に応じて、安眠や休息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について薬剤師の説明を受け、情報の共有に努めている。また、薬一覧表を作成し、理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが、洗濯たたみ・ゴミ捨て・掃除・植物の水遣り・調理など役割がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望ではできていないが、状況によって買い物に行ったり、外食に行ったりしている。ご家族様とは毎週外出されている方も居る。	天候や利用者の体調等を考慮しながら、買い物や散歩などを行っている。本人から外出の要望があれば、できるだけそれに応えるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてご家族様からお預りしている中で、ご本人と買い物に行っている。行けない場合には、代わりに職員が買って来るなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況によって電話をかけていただいている。また手紙や葉書も自由に書いて出していただくなど、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや月毎の貼り絵や飾りをしている。また衛生にも気をつけ、温度調整にも配慮している。	過度な装飾を避け、落ち着いた雰囲気づくりを心がけている。食卓、ソファ、TVなどが上手く配置され、利用者個々が自由にやりたいことをやれるような空間が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方によって思い思いに過ごせるように工夫している。フロアやエレベーター前の長いす・居室など自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合った部屋の工夫に努めているが、ご家族様の意向などもあり、あまり物がない方もいる。	それぞれの部屋の雰囲気が異なっており、利用者や家族の意向が反映された部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「できること」「わかること」を活かし、できることはやっていただけるように工夫している。また事故のないように努めている。		